



2022年第2回定例会（6月1日～6月24日）

物価高による給食食材費への補助、新型コロナへの対策などを含む（一般会計補正予算60億7516万円）計16議案が提案され、追加議案では保育所等給食費支援補助金1億5974万円を計上。24日に可決されました。

個人質問から（6月14日）

乳幼児の防災対応について

まつお：乳幼児が対象となる本市の防災備蓄品の種類、数量は。

A：粉ミルク376箱、哺乳瓶376本。紙おむつ9,024枚など。

まつお：本市での防災備蓄での液体ミルクの備蓄はあるか。

A：ない。

まつお：液体ミルクの粉ミルクとの違いとメリットはなにか。

A：液体ミルクは開封後すぐに飲用でき調乳が不要である。

まつお：液体ミルクは以前より消費期限が延びた。備蓄を検討するべきではないか。

A：本市でも備蓄を検討している。

液体ミルクを備蓄している中核市は62市中32市です。本市でも備蓄をするよう重ねて要望しました。



新型コロナワクチン接種証明書のイベント等での提示について

まつお：本市のイベントにおけるワクチン接種証明書や陰性証明書の提示はどうなっているか。

A：基本的に求めていない。

まつお：サマーナイト花火大会ではどうか。

A：新型コロナウイルス感染対策を実施するが、提示は考えていない。

まつお：ランニング桜島大会と鹿児島マラソンでは。

A：大会1週間前からの体調チェック等の義務付けなど参加条件を定めるが、**証明書等の提示は予定していない。**

本市主催の各種イベントの参加者に対しては、証明書等の提示を求めないということがわかりました。

武中学校通学路ののり面工事について

6月、現地には仮の防護柵が設置されていて、今後は恒久的な防災対策工事の予定があります。

まつお：現地の状況とこれまでの経緯について示せ。

A：令和2年12月にモルタル法面が崩落した。大型土嚢を設置し、仮防護柵などの応急工事が3年3月に終了。**現在週一回、職員での巡視を行っている。**

まつお：地域住民への説明と工事の進捗は。

A：3年1月に武小中学校、町内会への説明を済ませている。測量設計が終了し用地調査を実施中である。

まつお：今後、のり面が崩壊した場合の影響は。

A：防護柵で崩土を受け止め、崩壊した面に養生シートを施工する。また、一時的な交通規制が想定される。

まつお：現地住民の方の中には、仮工事の状態で終了していると思っている方もいた。また現在の状況がわからないなど不安の声を聴く。**通学路でもあることから、事業の区切りごとの学校等にも状況の説明、声掛け等が必要ではないのか。**市民への説明も含めた今後のスケジュール

ルはどうなっているのか。

A：工事着手の見通しは立っていないが、市民からの**問い合わせについては丁寧に説明を行っていく。**

その後、6月18日に市側から武中学校へ改めて工事の説明がされました。市民の不安や疑問解消のためにも、事業の進捗を説明することは重要です。



市長の政治姿勢について

①待機児童対策

まつお:本市の保育所等の待機児童数は136人であり、前年度比では54人増加している。この要因と教訓はなにか。

市長:慢性的な保育人材不足や受け入れができない施設が増加している地域での、利用申込数の増加などと考えている。十分な分析を行ったうえでスピード感をもって重点対策をしていく。

まつお:定例記者会見で市長が話された「市長直轄プロジェクト」とはなにか、方向性、効果、今後の対策についての考え方を示せ。

市長:要因分析から私自身が積極的に関わり、重点的な施策の検討、実施をしていく。直接関わることで意思決定を早めることができる。すでに5月から取り組んでおり、必要なものについては9月の補正予算で提案するなどしていく。

②児童虐待問題

まつお:令和3年度の、県と市の児童虐待の相談件数と認定件数は。

こども未来局長:県、市の順に、相談件数は3792件、1713件。認定件数は2423件、1023件。

まつお:相談件数は最多を更新し、認定件数も増加傾向にあることへの市長の見解は。

市長:児童虐待は人格形成に重大な影響を与えるとともに将来世代への影響も考えられることから、その防止には社会全体で取り組むべきである。

まつお:本市の児童相談所の早期設置について、市長直轄プロジェクトとすることも含めスピード感ある検討への考えは。

市長:子ども家庭支援センターの設置など総合的な取り組みを進めている。施設の整備については財政状況を踏まえながら検討していきたい。

本年度は児童相談所施設整備に関する予算がついていません。待機児童解消対策と同じようにスピード感、危機感を持って取り組むことを要望しました。



夜間中学について

まつお:令和2年の国勢調査から、全国の未就学者数と最終卒業校が小学校の人の数は。

A:未就学者数は9万4455人。最終卒業校が小学校の人の数は80万4293人である。

まつお:本市での人数はどうか。

A:195人と2545人であり、その多くが80歳代である。

まつお:夜間中学の必要性についての認識と速やかな設置に向けて知事との直接の対談等を含めた見解を示せ。



A:義務教育を終了しないまま学齢期を経過した方、事情により十分な教育を受けられなかった方が学ぶ場の保障である。県から調査等について依頼を受け、協力をしている。引き続き県の動向を注視する。

夜間中学就学の条件に合うご高齢の方が本市にもいらっしゃることから、早期に教育の機会を広げるためにも県と市のどちらが主となり夜間中学を作るのか、早期に決定すべきです。

市民文教委員会から

主な議案審査

○フレンドシップ(適応指導教室)支援事業適応指導とオンラインでの学習支援のためのパソコンを購入する予算を審議しました。

➡本市の不登校児童生徒数は令和元年度657名から令和3年度1153名と増加傾向にあることから、必要な予算として賛成。



○外国人児童生徒の教育推進事業

ウクライナから避難している児童生徒への学習支援を行う協力員の配置。自動翻訳機10台の購入。

➡賛成

主な報告

○桜島地域における義務教育学校基本構想基本構想に基づく整備方針/整備のスケジュールなどが示されました。

市議会から国へ、教育予算の拡充を求める意見書の提出

主な内容

1.子どもたちの教育環境改善のために、計画的な教職員定数の改善を推進すること。中学校においても学級編成基準を35人に引き下げること。

2.教育費の機会均等と水準の維持向上を図るため義務教育費国庫負担制度の負担割合を堅持すること。

まつお晴代/社民・立憲・市民フォーラム
鹿児島市山下町11-1(市役所西別館3F)
TEL:099-226-1019
E-mail violatricolor88@gmail.com

SNSでも活動報告/ご相談受付中です!



Twitter



instagram